

脳腫瘍における特異的分子マーカー（ACTC1）の探索と、 臨床的特徴に関する解析研究についてのご説明

はじめに：

脳腫瘍は発生機序、自然経過、予後など不明な点が多く、治療法は研究の進歩に伴い変化してきています。患者様の画像、遺伝子、免疫組織学的特徴とその治療予後の関係をくわしく調査、解析することは、今後の新しい治療法の開発に大きく貢献すると考えています。当施設及び研究連携施設で診療された脳腫瘍を有する患者様に関し、症状などの背景、画像所見、手術例では病理学的診断ならびに免疫組織学的特徴、遺伝子の異常などに関して調査し、発症から死亡までの生存期間、初回治療から再発までの無増悪生存期間などの比較検討を行います。

対象：

これまで当院および研究協力施設で脳腫瘍に対して治療を行った患者様が対象となります。年齢の制限は設けておりません。

研究内容：

- 1、対象となる患者様の経過、治療内容、画像情報などの診療情報を収集しデータベース化します。
 - 2、患者様から切除された組織から DNA を抽出し、ACTC1 という分子の発現を調べます。
 - 3、診療情報と変異を照らし合わせ、統計調査を行い、その関係を調べます。
- 以上の方法で検索を進める予定ですので、本研究を行うことで患者様に通常診療以上の金銭的あるいは肉体的なご負担が生じることはありません。

研究協力施設：

京都大学医学部脳神経外科、高知大学医学部脳神経外科、愛媛大学医学部脳神経外科

個人情報の保護：

個人情報は匿名化させていただき、本研究実施過程およびその結果の公表(学会発表や論文など)の際に、患者様を特定できる情報は一切含まれません。

データを提供したくない場合：

これまで脳腫瘍の治療を受けられた患者様で本研究に参加を拒否される方は以下のお問い合わせ先までご連絡ください。個人情報などの情報を破棄させていただきます。
また、検体提供の承諾後でもこの承諾はいつでも撤回できます。

研究期間：

平成 29 年 2 月 10 日～平成 38 年 3 月 31 日まで。

予定症例数：

400 症例

医学上の貢献：

研究成果は、脳腫瘍の分子生物学的診断、ならびに将来的な治療法開発の一助になり、患者さんの治療と健康に貢献できます。

問い合わせ先：

〒060-8543 北海道札幌市中央区南 1 条西 16 丁目

札幌医科大学附属病院 脳神経外科

本院研究責任者 三國 信啓、同研究分担者 鰐淵 昌彦

【平日 TEL(011)611-2111 内線 33510 (教室)

休日・時間外 TEL (011)611-2111 内線 33510 (教室)】